

## 新約聖書 マタイによる福音書 3章 13節—17節 (新共同訳)

<sup>13</sup>そのとき、イエスが、ガリラヤからヨルダン川のヨハネのところへ来られた。彼から洗礼を受けるためである。<sup>14</sup>ところが、ヨハネは、それを思いとどまらせようとして言った。「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか。」<sup>15</sup>しかし、イエスはお答えになった。「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」そこで、ヨハネはイエスの言われるとおりにした。<sup>16</sup>イエスは洗礼を受けると、すぐ水の中から上がられた。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になった。<sup>17</sup>そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。

※第1朗読と第2朗読は末尾に掲載

## 説教「私の愛する子」

本日の福音書は、洗礼者ヨハネから洗礼を受けるために、イエスがガリラヤからヨルダン川に出向いた場面から始まります。これは、イエスもヨハネも、共に三十歳頃のことでした。

洗礼者ヨハネはヨルダン川で、悔い改めに導くための洗礼を人々に授けていました(マタイ 3:11)。そこでイエスも、群衆に交じってヨハネから洗礼を受けようとしたのです。

イエスが洗礼を受けようとしたことに誰よりも驚いたのは、人々に洗礼を授けていたヨハネでした。彼は、何とかしてイエスが洗礼を受けることを思いとどまらせようとして言いました。「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか」(マタイ 3:14)。

マタイ福音書によると、このときイエスに初めて会ったヨハネでしたが、ヨハネはイエスを見た瞬間に、一目でイエスを「来るべきお方」である、特別な存在として見分けたのです。

ヨハネは、ヨハネ自身こそイエスから洗礼を受けるべきなのに、そのイエスが洗礼を受けるのは逆であると述べます(マタイ 3:14)。救い主であるイエスに洗礼を授けるなどとんでもない、むしろ自分こそイエスから洗礼を受けるべきだと思ったからです。

ですが「逆である」ことが、ここでは重要なのです。イエスは、あえてこのような逆であることを進んでなさいました。なぜならそのことが、イエスが救い主として歩む方向を明瞭に示すからです。

逆なのは分かったうえで、イエスがあえてヨハネから洗礼を受けようとしたのは、それが神の御心であるからにほかなりません。

神の御心とは、いったい何でしょうか。それは、罪のない神の子イエスが、罪ある人間と同じ位置に立つということです。

人間の罪の重荷を、本人に代わって背負うことができるのは、罪の重荷を背負っていない、清らかなお方だけです。普通の人間、自身も罪の重荷を背負う者には、他人の罪を代わりに背負うことができないからです。神は、そのために罪のない、清らかなご自分の独り子イエス・キリストを、私たち人間の世にお遣わしになりました。イエス・キリストが罪ある人間と同じ位置に立つことが神の御心であり、神の求めたもうたことなのです。

そのようにして、主イエスが人間の罪の重荷を、ご自分にすっかり引き受けてくださらない限り、私たちの救いはなく、私たちはこの罪の重荷から解放されません。罪なきお方でなければ、私たちの罪の重荷を、代わって引き受けることはできないからです。

イエスが洗礼を受けることを止めようとするヨハネに、イエスはこう言います。「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです」（マタイ 3:15）。「我々」とは、イエスとヨハネのことです。「正しいこと」とは、人間の目から見た正しさであるよりも、神の正しさです。それを「すべて行う」とは、神の意志のもとに自分たちを置くということです。

イエスは、ご自分には罪がないにも関わらず、罪の悔い改めの洗礼を受けられました。このことを通してイエスは、罪の重荷を背負う人間の側に立ってくださっているのです。イエスがヨハネの洗礼を受けられたのは、キリストのキリストたるゆえんです。

イエスは罪なき方であったのに、他の人々と共にこの悔い改めのしるしである洗礼を受けました。そこにイエスの、罪ある人間との深い連帯を見ることができます。イエスが人々と共に水の中に沈められ、人々と共に神のいのちに立ち上がる、この洗礼の出来事の中に、神の御心と愛があります。

イエスが洗礼を受けると、天がイエスに向かって開きます。そしてイエスは、神の霊が鳩のようにご自分の上に降ってくるのを見ます。そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえました（マタイ 3:16-17）。天から来られたイエス・キリストが、今、人として私たち人間と同じところに立たれたことによって、天が開け、天と地が結ばれたのです。

イエスは、「まことの神であり、まことの人」です。「まことの神であり、まことの人」であるとは、矛盾と思えるかもしれませんが、それよりも、神と人のハーフである、あるいは、神であるか・人であるかどちらか一方である、といわれたほうが分かりやすいでしょう。しかし、主イエス・キリストは「まことの神であり、まことの人」であります。つまり、完全に神であり、かつ、完全に人であるということです。まことの神であるお方が身を低くして、私たちと同じまことの人として生まれ、生き、死んだのです。天からの声は、それを宣言しているのだと思います。

イエスは、自分で自分に洗礼を受けたわけではなく、他者から洗礼を受けられました。

マタイ福音書には、生まれたばかりのイエスが、占星術の学者たちから黄金、乳香、没薬を献げられたことが記されています（マタイ 2:11）。

「神の子」と言うと、力に満ち、人に与える側だというイメージがあるかもしれませんが、人と同じように様々なことを他者からしてもらい、受け取ってきたイエスの道のりは「まことの神であり、まことの人である生」だと言えるのではないのでしょうか。

このときイエスは、私たちを代表して、悔い改めの洗礼を受けてくださいました。神の子が洗礼を受けたのは、キリストが、倒れた私たちと共に起き上がり、溺れた私たちと共に川から上がるためです。

生まれてから一度も、間違っただけの事のない人、失敗した事のない人、罪深いことをしなかった人はいないでしょう。主イエス・キリストは、いつでもそんな私たち人間と共に、愛と慈しみをもって立ってくださっているのです。

「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」とイエスは言いました（ヨハネ 20:27）。私たちは、人生において、希望をもって信じることのできない諦めの気持ちになることがあるでしょう。「信じる者になりなさい」というイエスの言葉は、そんな私たちを、愛と慈しみをもって励ましてくれているのです。

私たちは、主イエス・キリストの愛と祝福のもとに、試練の時も、喜びの時も、信じる者として日々を歩んで行きましょう。

お祈りをいたします。

天の父なる神様。あなたは私たちが生きていくために必要なすべての正しいことを行ってください。主イエスが私たちの重荷を負ってくださいるように、私たちも困っている人を助け、また他者からの助けを受けることができるようにしてください。御子イエス・キリストによって祈ります。アーメン

\*\*\*\*\* 説教ここまで \*\*\*\*\*

以下、本日に関連する聖書箇所（第1朗読と第2朗読）です。

### 旧約聖書 イザヤ書 42章1節—9節（新共同訳）

<sup>1</sup>見よ、わたしの僕、わたしが支える者を。わたしが選び、喜び迎える者を。彼の上にわたしの霊は置かれ／彼は国々の裁きを導き出す。<sup>2</sup>彼は叫ばず、呼ばわらず、声を巷に響かせない。<sup>3</sup>傷ついた葦を折ることなく／暗くなってゆく灯心を消すことなく／裁きを導き出して、確かなものとする。<sup>4</sup>暗くなることも、傷つき果てることもない／この地に裁きを置くときまでは。島々は彼の教えを待ち望む。

<sup>5</sup>主である神はこう言われる。神は天を創造して、これを広げ／地とそこに生ずるものを繰り広げ／その上に住む人々に息を与え／そこを歩く者に霊を与えられる。<sup>6</sup>主であるわたしは、恵みをもってあなたを呼び／あなたの手を取った。民の契約、諸国の光として／あなたを形づくり、あなたを立てた。<sup>7</sup>見ることのできない目を開き／捕らわれ人をその枷から／闇に住む人をその牢獄から救い出すために。

<sup>8</sup>わたしは主、これがわたしの名。わたしは栄光をほかの神に渡さず／わたしの栄誉を偶像に与えることはしない。<sup>9</sup>見よ、初めのことは成就した。新しいことをわたしは告げよう。それが芽生えてくる前に／わたしはあなたたちにそれを聞かせよう。

### 新約聖書 使徒言行録 10章34節—43節（新共同訳）

<sup>34</sup>そこで、ペトロは口を開きこう言った。「神は人を分け隔てなさないことが、よく分かりました。<sup>35</sup>どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです。<sup>36</sup>神がイエス・キリストによって——この方こそ、すべての人の主です——平和を告げ知らせ、イスラエルの子らに送ってくださった御言葉を、<sup>37</sup>あなたがたはご存じでしょう。ヨハネが洗礼を宣べ伝えた後に、ガリラヤから始まってユダヤ全土に起きた出来事です。<sup>38</sup>つまり、ナザレのイエスのことです。神は、聖霊と力によってこの方を油注がれた者となさいました。イエスは、方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられている人たちをすべていやされたのですが、それは、神が御一緒だったからです。<sup>39</sup>わたしたちは、イエスがユダヤ人の住む地方、特にエルサレムでなされたことすべての証人です。人々はイエスを木にかけて殺してしまいましたが、<sup>40</sup>神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。<sup>41</sup>しかし、それは民全体に対してではなく、前もって神に選ばれた証人、つまり、イエスが死者の中から復活した後、御一緒に食事をしたわたしたちに対してです。<sup>42</sup>そしてイエスは、御自分が生きている者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、力強く証しするようにと、わたしたちにお命じになりました。<sup>43</sup>また預言者も皆、イエスについて、この方を信じる者はだれでもその名によって罪の赦しが受けられる、と証ししています。」

教会讃美歌 292番「重荷をにないて」、294番「恵みふかきみ声もて」、337番「やすかれ」。